

優 秀

障害者への向き合い

相模原市立相陽中学校

2年

角金 なごかね

朋奈 ともな

人権は誰しも生まれた時から持っているもので、それは障害者の方と同じです。私は母が教えてくれた事件の「障害者なんていなくなっ
てしまえ。」という言葉は忘れられません。

皆さんは「障害者」と聞くと、何を思いつきますか？私は自分の体
験と、ある事件が思いつくのですが、一つとも障害者の権利や見方、
考え方が変わるものでした。私はこの学習で自分や色々な人の障害者
の方への考えが変わればいいなと思います。

一つ目は私の身近な体験です。私には今でもよく一緒にいる友達
がいるのですが、私と友達が中学一年の時、その友達から障害のあるこ
とを明かされました。私はその時、驚きと不安がありました。とても
身近な人が障害があったということ、今までその子を傷つけたりし
ていないか、支えられていたのかということ。それから私はその
友達に頼まれた時はできるだけサポートをするようになりました。私は
この出来事から、相手を傷つけないように支え合ったり、フォローし
合つことが大切だと気がきました。

二つ目は私が住んでいる相模原で起きた事件です。二〇一六年七月
二十六日に起きた『相模原障害者施設殺傷事件』という、死傷者が
四十五名ほど出た事件で、その死傷者のほとんどが障害がある方
でした。この事件の犯人は昔から「障害者はいらない。」や、この事件に
対して、「この犯罪は日本のために行った。」という考えや発言をし
ました。これは優生思想という優れた人間だけの社会を作ろうとする考

えにまつわるものや、特定の属性を持つ人間の偏見や憎悪により起
る犯罪、『ハイトクライム(憎悪犯罪)』とも考えられています。私は
このハイトクライムが障害のある方のことを良く思わない考えの一つ
となり、差別を起こしている原因だと思っています。

この体験と事件の二つのことから学んだことは、相手を傷つけず、
理解し、支え合ったり、サポートしたりすること、障害がある方も私
たちと同じ人間であり、差別をしてはいけないことです。もちろん、
差別は絶対にしてはいけないことですし、それが犯罪につながったり
することもいけません。だから、そのようなことを起こさせない社会
づくりや環境づくり、障害がある方などの人権、権利を見直したり、
学べるような時間をもっと多く取ったりすることが差別の減少につな
がるのではないのでしょうか。

自分や自分が今後できることは、身近な人を、今自分がやれるだ
けのサポートをしたり、二度とあの事件のようなことが起きないよ
う、今の私たちにできることを考えて行動してみることだと思
います。例えば、今私が考えているのは、「障害について、もっと理解
し、考えられるようになること。」や「将来の夢や地域のボランティア
などの障害がある方をサポートする仕事を視野に入れてみるこ
と。」です。私は、学校や家庭で知れる機会が少なく、考えることも少し難
しいです。だから、学校のタブレットPCを持ち帰って調べたり、実
際に体験して分かることもあると思います。これからも障害がある方
のことを考え、将来につなげられればいいなと思います。

私はこの作文を通して、「目に見える障害のある人、目に見えない
障害のある人も、私たちと同じ人間で、障害がある方に人権があるの
は当たり前だし、障害で悩んでいる人や傷ついている人が意外と近く
にいるかもしれない。」ということを知ってほしいです。

最後にもう一度言いますが、『人権はすべての人々が生まれながら
に持っている』ということを忘れないでください。